

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

質問させていただきます。

第1に、市長の政治姿勢について、まずお尋ねをいたします。

その中で、3点にわたっておりますが、この間、昨年来、テレビロケに対して、急転直下、まさに市長のトップダウンで、このがばいロケを誘致されました。昨年8月10日、臨時議会も開いて、武雄市の予算から15,000千円の支出をされました。賛成多数でありました。この支出の結果について、何の報告也没有。このことについてお尋ねをしたいと思います。

市長の政治姿勢の第2番目には、機構改革について、市民の皆さんには、さきの3月号の市報に、4月1日からの機構改革のお知らせが載っております。特に、この機構改革については、市長の目玉として、営業部、あるいは戦略課を設けて、全国でただ一つの名称だと自負されているようであります。そういう意味で、これに対する考え方について、さきの全員協議会、あるいは2月13日の臨時議会におきまして、私も質疑をいたしました。そういう中で改めて、この機構改革についての市長の政治姿勢を問いたいと思います。

三つ目に、新幹線問題についてであります。私は、旧山内町政の中で、23年議会に携わってきましたけれども、これに関して、新幹線問題について町政の中で議論になったこともありませんし、ほとんど実態、新聞等で報告されるだけであります。しかし、いざ合併してみますと、まさに一夜のうちに、この新幹線問題が市長の第1の仕事として動き出しているようであります。私はびっくりしました。市長の選挙公報を見ますと、この新幹線問題について何の一行も書いてありません。ただ、具約には書いていられると言われて見ますと、確かに書いてあります。推進の立場で。私は、この新幹線問題について、県民世論、市民世論を代表して、その声を代表して、反対の立場で市長に質問したいと思います。

大きい質問の第2点目に、紛れもなく合併して1年を経過しました。1市2町の、まして山内町、北方町、もちろん旧武雄市民の皆さんもあわせて、本当に暮らしやすい武雄市を、新たな市政を築いていただきたい、みんなで力を合わせて頑張りましょう、この思いは一緒だと思います。そういう中で、住んでいる人こそ主人公であります。住民こそ主人公の立場で、市政のかじ取りを行うことが市政の第1の仕事ではないでしょうか。そういう点で、第2点目に、暮らしやすい武雄市を目指して水道料金の引き下げを改めて求めたいと思います。

大きい3点目に、紛れもなく県下一高い固定資産税の問題、合併以来、新武雄市になって、臨時議会、あるいは6月の定例議会等で一般質問してまいりました。この問題についても、本当に早く市民の、町民の期待にこたえる施策を求めたいと思います。暮らしやすい武雄市を目指して固定資産税の引き下げを求めて、質問したいと思います。

それでは、第1点の市長の政治姿勢についてであります。

このテレビロケに対しまして、市長は15,000千円の市費を投資すると言われました。私は、この間の経緯を考えてみますと、本当にそういう意味では、テレビの持つ威力、マスコミの持つ威力はすばらしい、本当にびっくりしますし、そういう点で、このがばい効果、テレビや新聞を見ても、まさに話題性があるって本当に武雄市の名が広がる、そういう意味では皆さんの思いも一緒ではないかと思えます。

しかし、昨年8月10日の臨時議会の中で、私どもはここに一民間企業、いわゆる営利企業がある団体に市費を投入することはいかがかということで反対をいたしました。そういう意味では、話題性があるって非常にいいわけですが、このテレビロケ、もちろんテレビの放映、あるいは映画もそうですが、市民や県民が、あるいは日本全国の国民が共感するのは、ストーリーに共感するのではないのでしょうか。あの時代、私ども同じ世代でありますけれど、貧しい中で元気にけなげに、この頑張る姿に共感を覚え、子供たちもお年寄りも含めて涙したのではないのでしょうか。私はそういう意味では、テレビロケを反対するわけではありませぬ。しかし、そこに市費を投入して、誘致企業の発想でとか、投資効果だという思いで、自治体本来の本市の仕事とは言えないのではないかと思うわけです。

そこで、市長にお聞きしたいのは、市長が実行委員長として、このテレビロケを進めてまいりました。8月10日以前の全員協議会の中に資料で提出されている、いわゆる22,000千円の予算が提示されました。市費が15,000千円、民間の団体から6,000千円の寄附、そしてあと1,000千円、食事代として、懇親会費として1,000千円計上されて、計22,000千円。その結果について報告をされておられません。と同時に、この民間の寄附の中で、いわゆる行政の末端組織であります駐在員会、いわゆる区長会の中で、各区とも10千円の割り当て寄附的な1,070千円の寄附があるのですか、お尋ねしたいと思いますし、その詳細について、まず御答弁求めたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

前田企画部長

○前田企画部長〔登壇〕

お答えをしたいと思います。

まず、予算の関係でございますが、これにつきましては、昨年の8月に武雄市佐賀のがばいばあちゃん実行委員会が、市内各団体から成りまして立ち上げをされております。そのときは、実行委員会の予算としては、先ほどありましたように総額で22,000千円となっております。最終の見込みとして、これは3月で一応締めまして、実行委員会の方にも報告をしたいと思いますが、今の段階で、市の補助金が先ほどありましたように15,000千円、それから県の方から補助金として1,000千円、これは3月末に収入見込みでございます。それから、市内の企業、それからいろんな団体の方から協賛金として約16,000千円、それから諸収入として約4,000千円ということで、トータルで約36,000千円の収入見込みをしております。

それから一方、支出の方でございますが、ロケ隊の滞在費に約11,000千円、それからロケ隊の交通費に約6,000千円、それから、あと宣伝関係、特にロケが終わった後に視聴率を上げるための宣伝、それから、その後の宣伝関係で約12,000千円ということで、今のところ、約7,000千円程度が残るということで、これについては、あと実行委員会の方とも協議をしたいというふうに考えています。

それからもう一つ、区長会の方からの件でございますが、各区の方からについては、総額で910千円協賛金としていただいています。これについては、うちの方から強制的に10千円とか、そういうことはやっておりませんで、代表区長会の中で議論がされまして、1区当たり平均10千円程度協賛をしようということで、協賛をいただいたということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

詳細については部長から答弁がありましたけれども、どうでしょうか。物事には、まず原因があつて結果があるというふうに思っております。これで実行委員会の物心両面の支援がなかった場合に、このドラマ「佐賀のがばいばあちゃん」が武雄であるわけがなかったわけですね。そういう意味で、私は、杉原議長を初めとする議会の皆さんたちの深い御理解と御納得に本当に感謝したかわけですよ。そういうことで、実行委員会の経費、これは先ほどありましたように、区長会等々からも出していただきました。これはある意味視聴率、そして今後の今のまちづくりの状況を考えた場合、それと知名度の向上、そして観光客の増を考えた場合に、私はこれは投資的観点から申し上げますと、十分成功しているというふうに考えております。

もとより、まだドラマセット、淀姫神社のセットの扱いが決まっておりませんので、それが決まり次第、会計を再度閉じまして、議会並びに実行委員会等には報告したいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

先ほど、このテレビロケの誘致について、8月10日の臨時議会での指摘について申し上げました。さまざまなかわり方があるかと思います。

そこで、市長はこのテレビロケを誘致企業として、投資としてお願いしたいと言われました。よく考えますと、うん、そのときはそうかなと。でも、今誘致企業の皆さんが、土地開発公社という形で行政が土地を造成して、そこに入ってくださいます。しかし、それは取得をされるわけですよ。でも、今回のこのテレビロケというのは、いわゆる資料で説明されましたけれども、ロケ隊の滞在費、いわゆるスタッフ、キャストの滞在費、私どもは、これは

本来テレビ局が払う費用ではないかと。だから、あえて市長は企業誘致として言われましたけれども、私はそれは市民感情には合わなかったということでもあります。

そういう意味で、代表区長会の中で、そうした割り当てる寄附ですよ、本当に。市長が実行委員長ならば、やっぱりそういうものがあつたからこそ出そうかということで進んだでしょう。でも区民にとっては、何も知らないうちに、各区ともやはり支出しないと大変だということで払われたかと思えますけれども、聞いた区民は、やはりすんと落ちないんですよ。そういうマイナスの面があつたということは、私は正しくないという思いをいたしますし、もう一つ、私どもが反対の理由に上げました、いわゆる公益性があると。補助金を支出するのに、果たして公益性があるのかどうか言いました。公益性にはずれるんじゃないかと。それは一テレビ局の、東京にもいろんなキー局がありますので、そういう指摘をいたしました。

事態は1月3日、ことしのお正月、1月3日、4日、あるキー局は連続した放映をいたしました。がばいを口けされたキー局は1月4日の放映でした。新市になりまして、1月3日、4日、5日は、武雄市の成人式がありました。3日は北方、4日は武雄、5日は山内町でした。この成人式のあいさつに、市長のあいさつを聞いて私はびっくりしました。5日の山内町の成人式の市長のあいさつの開口一番、「がばい、見ましたか。勝った、マグロに勝った」と言われました。私はこれ聞いて唖然としました。やはり市長の頭の中に、認識の中に、勝負事じゃないんですよ、公益性というのは、やっぱり一つの企業、民放テレビ局のまさに視聴率競争の、その片棒を担われたんでしょうか。そういう感じを受けました。私の認識がおかしいのではなくて、市政を預かるリーダーとして、首長として、やはり言葉というのは非常に大切です。重いですよ。それは、あの成人式の日、これからの未来を担う二十歳を迎えた、まさに初々しい男女若者が勢ぞろいしておりました。そのときの市長のあいさつが、がばいから始まってがばいで終わる。ましてマグロに勝ったというのは、私はいかがかと思いました。

そういう意味で、市長としての政治姿勢は、やはり本当に公益性を持って、常に全体の奉仕者として、市政のリーダーとして取り組むことが、言動を求められますが、その認識について市長いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は、自分の政治信条として、公的な場で話すときは、一字一句吟味をいたします。決して思いつきで発言をしたり、あるいは本来の自分が思っていることと違う言葉にならないように極力努力をしております。その上で、私が申し上げたいのは、例えば、一民間企業に、当該民間企業に15,000千円を支払うといったことについては、これは公共性とは全

然逸脱している。しかし、今回のドラマ「佐賀のがばいばあちゃん」ということになると、私は広い意味での公共性があるというふうに認識しております。公共電波法で定められた当該キー局が放送していただけると。それで佐賀、あるいは武雄を認知していただけると、その効果が出ているという意味では、これは公共の広報宣伝活動だというふうな一端を担っております。

それと、もう一つ考えなければいけないのは、我々は補助金を出す立場から乗数効果を考えなければいけない。これは2点あります。一つは、先ほど宿泊費とありましたけれども、あれはすべて地元に泊まっていたいております。そういう意味では、地元に還流しておるわけですね。それともう一つが、乗数効果といった場合に、例えば、これに1,000千円をかけるといった場合に、市が例えば市報なりインターネットでやるやり方と、ああいうふうに公共電波に乗っけてやるやり方とどちらが効果があったでしょうか。そういう意味での乗数効果をこれからの行政は考えなければいけないと思いますし、そういうことで、私はいろいろ非難、批判がありますけれども、全く当たらないというふうに考えております。もとより、いろんな批判はあったというふうに重々承知はしております。しかし、私は多くの市民の方が、これについては合意をし、納得をしていただき、そして、だからこそ今新たなまちづくりについていろんなスタートを切られているというふうに認識をしております。

ただ、100%賛成というのは、こういった世界、特に政治の世界ではないというふうなことは認識しておりますけれども、大卒私は合格点をつけていただいているものと認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

私が聞いた質問には何も答えず、もうテレビロケの効果だけまくし立てておられますが、先ほど言いました成人式のあいさつ、「マグロに勝った」という意味、どういう意味でしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

「マグロに勝った」という意味は、例えであります。それは、やっぱり行政、あるいは政治の長は、物事を語るときには、まずわかりやすく話さんばいかわけですね。何とか所存でありますとかじゃなくて、ずっと入ってもらうために、私はそのための努力はしております。そのときに、私の願意は、要は結果だと。特に民放の視聴率があったからこそ、私は次につながるというふうに思いました。これが例えば、マグロに負けて視聴率が9%か8%だったら、今こんな盛り上がりが見込めたでしょうか。私は、これがすべてだとは言いません。

んけれども、ある意味明確な数値、これについてライバルであると我々も目しておりました。あれは北海道並びに大間地区が挙げてやったということについて、私は武雄市民の頑張り並びに佐賀県民の頑張りで、あの視聴率が出てきたと。もちろん原作もよかった、武雄のロケ地もよかった、そういったさまざまな努力、有形無形の努力があつた数字に出て、しかも、最も強い、宣伝費もあれ10倍ぐらいかかっておるわけですね、マグロの方が。それに我々の心意気が勝つたということで、私の率直な気持ちを山内の皆さんたちに伝えたいつもりでありますし、それと私は別に、がばいで始まりがばいで終わったというふうにありますけれども、途中はいろんな私の思いを申し伝えたいところでもあります。

それと、私は、庭木教育長から先ほどありましたように、これがふるさとの再発見、そして自分たちの自信につながるという意味で例えを出したところでもあります。その証拠に、議員は先ほどそういうふうにおっしゃいましたけれども、私のあのあいさつを聞いて、よかったという声も寄せられておりますので、物事には両面あるということを申し添えたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

この成人式の日に、たまたま放映の翌日でございますので、まだほやほやのときでした。本当にそういう意味では、市長は感激をして、山内の成人式のあいさつに開口一番言われたかと思います。聞いた私はびっくりしたわけでありまして、その中に参加している人、新成人の皆さんの中でも、新しい市長に初めてお会いする方もたくさんおられたかと思います。そういう意味で、いろんな意見があると市長言われました。本当に一字一句、市長、吟味していると、果たしてそうかなと思いますよ。私はこの答弁にはちょっと納得できないですね。

そこで、このテレビドラマ誘致実行委員会の予算書が8月10日出されました。この詳細について、まだ余っているんですか。先ほどの答弁、部長いかがですか。

○議長（杉原豊喜君）

前田企画部長

○前田企画部長〔登壇〕

お答えしたいと思います。

先ほど言いましたように、収入のトータルが約36,000千円ありまして、これは2月末現在でございます。支出の方が約29,000千円で、差し引き約7,000千円が今のところ残っているという状況です。

○議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

もうお昼になりますので、ちょっと詳細な資料をまず、昼からの午後の冒頭にお示してください。でないと質問できませんので。

○議長（杉原豊喜君）

ここで午後1時10分まで暫時休憩をいたします。

休	憩	11時56分
再	開	13時10分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続きまして午後の会議を開きます。

一般質問を続けます。23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

テレビロケについて、実行委員会の決算の見込みという形で、今、資料をいただきました。市民の皆さんもテレビを見ておられますので、市の補助金15,000千円、県の補助金1,000千円、協賛金・広告料、企業、団体等協賛金14,726千円、募金が276,170円ありますね。職員協賛金790千円、議員協賛金75千円、諸収入がありますが、先ほどの企業、団体等協賛金14,726千円の中に、先ほど言いました区長会から910千円の協賛金があるわけですが、私はこういう半ば強制的な、いわゆる区民が末端行政を構成している団体は、私はそれは省くべきだと思いますし、区の行政をする上で本当に貴重な財源をですね、気持ちはわかりますけれども、外すべきだと。910千円、募金、協賛いただいた区に返すお気持ち、市長、ありませんか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

区の協賛金を含め、午前中に部長が答弁したとおり、7,000千円強が今、余剰金としてあると。これについての取り扱いは、実行委員会で3月末、もしくは4月の頭になると思いますけれども、そこで協議をしたいというふうに考えております。その上で、その結論については議会に報告をしたいと、かように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

本当そういう意味では、この間、このテレビロケの話が起こりましてから、議会に提案説明された資料でいきますと、討議資料として、武雄市テレビドラマ誘致事業について示された中で、このテレビドラマ誘致実行委員会、この委員長は市長ですね。

〔市長「そうですね」〕

本当そういう意味では、この収支決算も含めまして、本当に全員協議会等とかなんかにやっぱりちゃんと示して報告をやるべきじゃないでしょうか。

そういう意味では、今、指摘しましたけれども、やはり首長として公私の別をはっきり示して、話題性だけでなく、公益性から私は合致していないと指摘をしておきたいと思いますので、後日、ちゃんとした検討をして報告していただきたいと思います。

〔 6 番「議長、議事進行」 〕

○議長（杉原豊喜君）

6 番宮本議員

○ 6 番（宮本栄八君）〔登壇〕

今、この計算書を読み上げられなかったら、それでいいと思ったんですけども、一応ここで議員協賛金と書いてありますけれども、協賛は公職選挙法に違反するのではないかということで、多分、賛助会員になったと思うわけなんですよね。だから、そこを明確にしてもらわないと、これがそのままいったら、あら、選挙違反じゃないのと言われることもありますので、一応確認したいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

暫時休憩をいたします。

休	憩	13時15分
再	開	14時25分

○議長（杉原豊喜君）

大変長らくお待たせいたしました。ただいまより休憩前に引き続き再開をいたしたいと思います。

先ほどの議事進行について、議長としての取り扱いを申し上げます。

第 1 点目ですが、参考資料の中にあった先ほどの指摘の分は賛助会費の間違いであり、執行部より参考資料の差しかえの申し出がっておりますので、これを許可したいと思います。

また、賛助会員は、議員間で協議し、任意での会員を募集したものでありまして、全議員ではないということを申し述べさせていただきたいと思います。

執行部より参考資料の説明を再度求めます。前田企画部長

○前田企画部長〔登壇〕

先ほどの資料について訂正をしまして、おわびしたいと思います。

まず、資料の中で項目につきまして、ここは先ほど指摘ございましたが、これについては、あくまでも昨年の 8 月の実行委員会でした予算の項目を書いております。それで、若干摘要の欄と食い違っている分がありますが、あくまでも予算で計上したと、項目についてはですね。

そういう中で、3 点目の協賛金・広告料の項目の中で、その摘要の一番最後の 75 千円に

つきましては、これについては、実行委員会の会則の中で、第4条に会則の構成ということで、実行委員会の代表者、それから、目的に賛同する者ということで、この実行委員会の趣旨に賛同する者をもって構成をするということになっております。それから、第10条の経費の中で、本会の経費については、市補助金、それから、協賛金、賛助会費その他収入をもって充てるということになっておりまして、この75千円については、実行委員会の会則に基づいて賛助会費25名分ということでございます。（「進行」と呼ぶ者あり）

○議長（杉原豊喜君）

23番議員の一般質問を続けてください。23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

テレビロケに関して、もう1点、立ち戻って質問します。

この実行委員会の決算見込みをよく見ますと、当初、収入の部、8月の――7月でしたが、全員協議会で示された収入の部に市補助金15,000千円、協賛金・広告料6,000千円、諸収入1,000千円、ここに交流会費200人ほか、このときの説明が、この実行委員会に携わる皆さんのスタッフも入れて200名、これは会費を5千円取って、支出の部、交流会費1,000千円、スタッフ、キャスト、地元と書いてあります。いわゆる交流会費という形で収入支出、ゼロ、ゼロと、1,000千円、1,000千円でゼロになっています。

ただ、今示されましたこの決算見込みを見ますと、諸収入の予算は1,000千円ですが、決算見込み3,919,881円、この中に、いわゆる交流会費2,000人分の掛け5千円、1,000千円ありません。ですから……（「ちょっと待って。200人やろう」と呼ぶ者あり）200人ですね。交流会費として200人ほか、示されております、諸収入でですね。このときの説明が1人5千円の会費をいただいて、いわゆる打ち上げ等の懇親会、1,000千円を交流会費として支出を予定されておりました。しかし、この決算見込みを見てみますと、交流会費のところを見ますと、予算額1,000千円に対して、決算が1,575,869円です。四つありますが、島田洋七氏を囲む会703,267円、打ち入り357,237円、打ち上げ485,365円、花束代30千円となっています。

ここで、交流会に参加する方の、いわゆるいらっしゃったかと思いますが、スタッフやキャスト、地元の皆さん、これは山内町で50周年記念プログラムをしたときに協賛金をいただいて、花火大会が8月、きれいな花火を打ち上げました。ところが、この実行委員会がスタッフ一同、この協賛金の中から打ち上げ代として92千円、飲食代に計上していました。私はそれはおかしいよと。協賛金を、ましてこのがばいばあちゃん実行委員会、市費15,000千円、補助金として出しました。県からも1,000千円いただいた。こういう会計をですね、当初の説明と全く違うんじゃないですか。説明つかないと思いますよ。市長、いかがですか。

○議長（杉原豊喜君）

前田企画部長

○ 前田企画部長〔登壇〕

お答えしたいと思います。

先ほどの1,000千円についての収入、それから、交流会費の件でございますが、予算につきましては、あくまでも予算でございまして、総額が22,000千円ということで、決算の収入見込みが36,000千円になっているということでございます。

特に、今回のロケにつきましては、当初の段階で、いろいろ経緯がありますが、先が全然見えない状況でございました。そういうことで、途中、実行委員会の役員会の中で随時報告をしながら、この経費の使途についてもお願いをしてきたところでございます。

それから、先ほどの食糧費の件でございますけれども、実は9月6日からロケが始まっております、その前日にロケ隊をお迎えするというので、そのときは出席者が89名でございます。そのうちにテレビの方から56名、それから、地元のボランティアのスタッフ、市の関係者含めて89名ですが、あくまでもロケ隊の歓迎、それから、ロケ隊と地元のボランティアスタッフ、市の職員との顔合わせということで実施をしております。それから、一番最後に、ロケが終了しました時点で、10月12日に打ち上げを行っております。ここでは出席者が126名おりまして、そのうちテレビの方が43名、それから、地元のボランティアのスタッフが24名、実行委員会のメンバーと市の関係者含めて59名ということで、ここではロケの終了の慰労、ロケ隊へのお礼、それから、特に地元のボランティアにつきましては、早朝から夜遅くまで本当によくしていただきまして、そのお礼を含めて打ち上げをしております。

それから、先ほどのロケに入るときと打ち上げについては、市の職員、それから、実行委員会につきましては会費を徴収いたしております。

以上です。

○ 議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

○ 23番（江原一雄君）〔登壇〕

部長の答弁ではっきりすると思いますけど、市の補助金を支出して、まして協賛金を集めて、それは慰労会はあるでしょう。最初に説明があったと今部長の答弁は全く違うじゃないですか。テレビを見ている市民、そのとおりだと思いますよ。だから、ちゃんと5千円と説明はあったんですよ。やっぱりそこを一緒くたにするものじゃないと思います。市長、いかがですか。

○ 議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○ 樋渡市長〔登壇〕

全体のもてなし、あるいは実行委員会の趣旨、そして、ロケ隊の活動に対するお礼等々、そして、先ほど部長からあったように、ボランティアと一緒に労をねぎらうとか、あるいは

いろんな場を共有するといった観点からすると、私は何ら問題はないというふうに理解しております。

○議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

市長の政治姿勢、もうつまびらかじゃないでしょうか。もてなし、そんなごまかしだらいかんですよ。私も議会にちゃんと説明しているじゃないですか。200人掛け5千円いただいて、交流会費のスタッフ、キャスト、地元と、支出も述べているんですよ。でも、決算見込み、決算、まさに飲食代、悪い言葉で言いますと飲み食いしたと。もてなしじゃないですよ。

やっぱりそういう意味では、この市の補助金の支出、おかしいと指摘しました。テレビロケを反対しているわけじゃありません。公益性含めて指摘をいたしました。市長が言うように、もてなしでロケに参加したスタッフの皆さんは会費という形で、お礼という形でできないと。ちょっと先ほど休み時間に言いましたけど、市の職員含めまして参加しておるわけですから、当然、私はここに飲食代として支出されているものと思いましたが、よくよく決算見込みを見ますと載っていないじゃないですか。以前の山内町の例と全く一緒です。市長が首かしげるのが、私はおかしいですね。

逆に言いますと、この会費をちゃんと取ってやるべきだし、まして指摘をしました。地元駐在、末端行政、区長さん初め、本当に苦勞して区の末端行政をやられております。そういうお金も協賛していただいた。そういう思いを、そういう意味では、いろいろ散らばっているからわかりませんが、支出項目を見ると、こういう形になっておる。やはり納得できないんじゃないでしょうか。部長、いかがですか。

○議長（杉原豊喜君）

前田企画部長

○前田企画部長〔登壇〕

先ほど私の方から申し上げましたように、ロケの打ち入りと打ち上げの関係で、市の職員、それから、地元の実行委員会の方からは会費を徴収しまして、ここの決算見込みの中の諸収入のその他諸収入の中に入っているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

じゃ、ちゃんと説明してください。その他諸収入883,381円あります。この内訳を言ってください。

○議長（杉原豊喜君）

前田企画部長

○前田企画部長〔登壇〕

内訳でございますが、大きいもので言いますと、ロケ地マップをつくりまして、その広告料として510千円、これは佐賀新聞に年末に広告料を出した分で、地元の企業さんの方からの広告でございます。

それから、先ほどの打ち入りの会費につきましては23名分で2千円の46千円。それから、打ち上げの会費が59名分で118千円。それから、あと島田洋七氏との懇親会の中で、これは実行委員会の正副会長でございますが、その会費62,500円。それから、途中、中打ち上げといいまして、台風が来たときに一たん帰られましたので、そのときにやっております、その会費が28千円。それから、志がありまして、お花ですね、それが40千円です。それから、ボランティアガイドの養成講座をいたしましたので、その参加料が54千円。それに預金の利息が3,091円。あと2,890円はTシャツの通販分の収入ということで、先ほどの883,381円でございます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

基本的にはこれは議員と同じだと思いますけれども、市の予算が、例えば、直入でこういうことに充てるといったら、これは問題かもしれません。しかし、実行委員会ということに入って、これはさまざまな協賛金とか入った上での実行委員会の総予算になっておるわけですね。その中から、実行委員会の意思としてきちんと支払うといったことについて、まず、手続上は何ら問題がないというふうに申し述べたいと思います。

その上で、これは職員も含めてですけれども、きちんと会費を取っております。先ほど部長から答弁があったように、2千円という会費を取っておりますので、これは料理相当分であります。そういう意味からすると、なぜこれが問題になるのか、私にはちょっとわからない、これが正直な感想であります。

○議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

市長は今までの仕事上、いろんなあの手この手があるでしょう。実行委員会をつくったから、市とは関係ないと。でも、市民はですね、実行委員会といっても、その実行委員長は市長でしょう。ましてトップダウンでこのテレビロケは動いているわけでしょう。抜け道を言われましたけれども、実行委員会だから何ら手続上は問題はないと。問題じゃないと言われるけど、市民感情は問題なんですよ。そこをわかっておってください。市民感情と市長の思うルールとは、ちょっと違うんじゃないでしょうか。

それと、会費は払っていると言われました。最初 5 千円と言われました。何で 2 千円に下がったんですか。詳細に言ってください。

○議長（杉原豊喜君）

前田企画部長

○前田企画部長〔登壇〕

お答えしたいと思います。

会費と、それから、交流会費の1,000千円でございますが、これはあくまでも予算でございまして、200名分の 5 千円で予算を組んだということで、実際はさっき言いましたように、打ち入り、打ち上げ、そこで 2 回、うちの方が非を認めますが、職員、それから、実行委員会からは都合 4 千円取っているという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

行政は全体の奉仕者として、みんなが納得できる説明がなければ結果責任ですよ。最初、ちゃんとそういう形でここに、これは日付を私は書いていませんから、討議資料として渡された武雄テレビドラマ誘致事業について予算案を出されております。そのとき説明があった。その説明を今の今まで私は確信しておりましたので、今、部長から、市長から説明いただきましたけれども、この予算、決算の見込みとは違うと。違うなら、どうしてもっと早く説明しないんですか。

だから、そういう意味では、いろいろ物議を醸しておりますけれども、私は当初のようにちゃんともとに戻して、これだけの協賛、市の補助金、県の補助金、協賛金が集まって、たがが緩んでいるんじゃないですか。そのことを指摘しておきたいと思います。

時間がないので、市長の政治姿勢の機構改革について。

平成19年度の組織機構の見直し方針を提示されました。この見直し方針を見ますと、合併効果の確実な実現、時代に対応した組織体制の構築ということで、今度の 3 月 1 日の市報での現体制と新しい体制の報告がっております。その市報には、私が指摘する文言については載っていません。しかし、私はことし 2 月13日の機構改革の臨時議会のときに、この見直し方針の中に、「地域間競争に打ち勝ち、地域産業の活性化を推進する組織体制」、営業部として位置づけると。そして、地域営業戦略の推進として、営業部を新設すると同時に、「地域間競争に打ち勝ち、「武雄を知ってもらって、訪れたいまちづくり、そして住み続けたいまちづくり」」、こういう文言で、地域間競争という考え方が、私はそれは行政の文言にはふさわしくないと削除を求めました。しかし、市長はあくまでも名は体をあらわすとして、この地域間競争に打ち勝つという文言を削除する意思は示されませんでした。

1 月31日の臨時議会の後、全員協議会の中で組織方針の見直しが示されました。これが 2

月1日、マスコミの新聞に載りました。営業部、あるいは戦略課、各紙載りました。これを見た市民、町民の中で、「何じゃこりゃ」と一発、私に会った人が言いました。今、本当に行政は経済団体と違うわけでありまして、地域間競争に打ち勝つ、あくまでも私はこれは削除してほしいと思いますが、営業部、あるいは戦略課、これもやっぱり私は再考するべきだと思います。

そこで、さきの臨時議会、2月13日に市長に、地域間競争に打ち勝つ、これはどういう意味かお尋ねをしました。今、全国1,807自治体あるようですが、大きい大都市、東京みたいなところと競争するものではない。競争相手は、目指すは富良野だと言われました。北海道富良野市です。その前に、ここ一、二カ月は余り言われませんが、湯布院は出てきませんけど、そのとき言われたのは、黒川温泉、高知県の馬路村、岩手県の滝沢村、そして、目指すは富良野市だと、こう言われました。これは地域間競争に打ち勝つ問題とは違いまして、そういう地域のまちおこし、地域の産業を本当に掘り起こして、20年、30年、40年かかってまちづくり、村づくりをしているわけですよ。地域の経済団体と力を合わせて頑張っているわけですよ。そういうところを学んで、武雄市としても新武雄市のスタートを切って1年、本当にそういう市や町や村と肩を並べるように、武雄のイメージアップを図り、そして、機構改革を市民協働で頑張っていきたい、こういう文言だったらよくわかります。しかし、地域間競争に打ち勝つとか、まさに勝負事ではないでしょうか。

先ほど全国の例を市長も挙げられました、競争相手として。ここ、実は次に質問する新幹線、通っていないじゃないですか。次の問題で言いますけど、ある新聞に佐賀はそんな急がなくていいじゃないか。佐賀は佐賀らしく、武雄は武雄らしくといいますが、そういう意味での指摘をしておきたいと思いますが、市長、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、この答弁にお答えする前に、がばいの実行委員会のお話をしたいというふうに思います。

基本的にはこういう経費については、しかるべき段階で実行委員会の役員会にはきちんと報告をし、了承をとっております。その上でさらに、先ほど答弁したとおり、まだロケセットが片づいておらんわけですね、どうするか。これについて、決算を終了した後に4月の頭をめどとして報告をするというふうに、ガラス張り、透明の中でしたところであります。

その上でお答えをしたいと思います。

私は旧山内町の総合計画を見て、びっくりしたですね。さすがと思いました。この中に、これは議会の議決事項ですので、杉原議長を初めとして、これはすごかと思いました。というのが、「自治体間競争が激しくなっている中で、戦略プロジェクト方式の導入、波及効果

の大きい重点的な戦略プロジェクトを考案し」というふうな文言がもう書いてあるわけです。どうでしょうか。私は営業部、戦略課という文言を立てるときに、これは私のイニシアチブでいたしましたけれども、これについて、私もさまざまな総合計画、基本構想等々を読んだときに、こういった考え方が一般的であると。そういう意味で、名は体をあらわすという意味で、私は先ほど議員が御指摘のあった文言を入れているところであります。

もとより、これをするからといって、これは谷口議員からも指摘がありましたように、戦略とは戦わずして勝つという明言がありました。まさにそのとおり、至言だと思います。そういう意味で、私は自治体間競争というのは、今までの横並びではなくて、自分たちの優位性、これを見つけて伸ばしていく、これがひいては自治体間競争、あるいは地域間競争に打ち勝つという文言につなげているというふうに解釈をしております。

○議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

市長が言う地域間競争に打ち勝つというのは、とげとげしいですよ。これは市民の皆さんが受けた感じは、私はこの間の樋渡市政の1年間の中で、それが随所にいろんな形であらわれているんじゃないかなと考えております。今後、指摘をしていきたいと思います。

本来、そういう意味では、地方自治法の目的、滞在者、住民の福祉、安全・安心を守っていく、これが地方自治の最大の務めでありますので、そのこともつけ加えて指摘しておきたいと思います。

3番目の新幹線問題について移ります。

私は先ほど最初の質問の中で言いましたように、これまで旧武雄市議会の中で、一昨年12月もそうした新幹線推進のための質疑があったと後で聞きましたけれども、山内町におきまして、私の率直な感想と意見を申し上げました。以前、国立療養所武雄病院の場合などは、地域医療を本当に守るために、議会の中でも住民団体、守る会の人たちの請願を受けて議論をし、地域医療の中核として残すべきだという形で請願を通し、国に対しても意見書を提出した経緯もあり、議論いたしました。でも、新幹線の問題につきましては、全く触れない姿でありました。

そういう意味では、新武雄市になって、市長が6月議会で海のシルクロードだという形で答弁されて、新幹線の推進を先頭になって頑張りますと言われました。私はびっくりたまげで、何が海のシルクロードだと。

〔市長「アジアのシルクロード」〕

ああ、アジアのシルクロードですか。似たようなもんですけどーいや、アジアのシルクロードだったら、海があるわけですから、それを例える方が例える方ですね。

もとに戻りますけど、率直なところ、この新幹線問題については、本当にさまざま議論さ

れているのがよくわかりませんでした。これが率直なところです。でも、この数カ月、本当に真剣にこの公共事業の問題のあり方、やはり学ばざるを得ませんが、そこで、昨日、議会の中でもこの新幹線についての議論がありました。それは2年前、平成16年12月16日、政府・与党の申し合わせで、1点あります。基本的な考え方で期待感のみを膨らませることは慎むべきである。これは9月議会、同僚議員も質問しました。この指摘に対して市長の答弁は、自分も同感だと言われました。私はそれを聞いていて、同感だという市長が新幹線推進ありき、そのものずばり、紛れもなく新市長として第一の仕事が新幹線、第一の仕事。先ほど指摘しました。本当にそういう意味では、ここに言っている政府・与党の申し合わせ事項の中の基本的な考え方、期待感のみを膨らませることは慎むべきである。でも、全くこの逆じゃないですか。行動は全く逆じゃないでしょうか。いかがですかね。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

期待感のみを膨らませるということに関しては、全く私はそんなこと思っておりません。具体的な数字は、例えば、サガテレビに出て、これは公共事業費のたった1%であるとか、総予算の0.09%であるとか、いろんな数字を掲げ、そして、博多駅の例、さまざまな実態的な例を私は申し述べたつもりであります。その結果として、新幹線が賛成という皆さんが、これはサガテレビでも出ましたけれども、もともと4割弱だったのが6割になった。それは議会の多くの皆さんと我々市役所、そして、市民の多くの力でそういった現実的な話として転化しているんじゃないでしょうか、私はそのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

この新幹線の問題について推進される皆さん、本当にしゃにむに推進しようとされておりますが、しかし、本当に先ほどの地域間競争に打ち勝つという、ここでも新幹線の行政の中で、そのことを指摘して、推進する側もそういう形で言われております。今度の2月号の県民だよりを見て、私はびっくりしますが、この新幹線のページがありますが、「経営分離によって並行在来線の沿線地域が衰退するのではないかという不安をお持ちの皆さんもいらっしやいます。県は並行在来線沿線地域がトータルでプラスになるように、経営分離同意という厳しい判断をしていただいた市町を特に支援する振興策を責任を持って実現します」、結局、県の事業推進に賛成しない市や町は何も支援しません、経営分離に同意した市や町は温かい手厚い特に支援する振興策を責任を持って実現します、こういう文言をもって、まさに佐賀県の自治体間の中に地域間競争を持ち込み、勝ち組、負け組をつくっていく。執行側がこういう文言をもってやるというのは、まさに地方自治法の本旨から外れているんじゃない

かと私は思う次第です。

そういう意味で、9月議会、平野議員も質問しましたが、東京から大阪、博多まで、あるいは博多から鹿児島まで、これは新幹線について国が責任持って開業するために公共事業としてつくった路線。しかし、それ以外、整備新幹線としてそれにくつつくルートにつきましては、地元の費用負担をいただいて整備新幹線します、こういう事業に変わっていると。だからこそ、そこに住んでいる人たちの沿線自治体の同意がなければ整備新幹線事業は進むことができませんというのが政府・与党合意の中身ではないでしょうか。

そういうことで、3月1日、ある新聞に国土交通省の大臣が着工条件は変えません、こういう記事が載っていました。これは2年前にさかのぼって、平成17年3月10日、我が党所属の国会議員が国会で質問して、沿線自治体の同意がなければ着工しません、こういう指摘があったわけですし、それを受けて古川知事も同意がなければくい一本打たせませんと。ところが、古川知事はころっと変わって、佐賀県として新幹線の推進に同意をされました。そういう意味では、私はこの間、本当に新幹線ありきで推進されている。この武雄の市報にも、あるいは県民だよりのこういう広報を使って、新幹線ありきの報道をされます。一方で昨年、関係する自治体で代替案として、60数億円かけて時間短縮13分で行けるという案も示されました。

本当にそういう意味では、この新幹線の問題がこれまでどれくらいの費用を市費として使っているのか。また、市の広報を使ってこういうキャンペーンをされております。どのくらいの費用を使ってこられたのか、お尋ねしておきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

前田企画部長

○前田企画部長〔登壇〕

はっきりした数字はつかんでおりませんが、昨年度は武雄市の建設推進の期成会ですが、これは会議所に事務局がございますが、そこに1,000千円予算を補助金として流しております。

あと、うちの経費については職員の旅費程度でございます。

○議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

毎年毎年、市の費用、あるいは県の費用を投入して、まさに新幹線ありきの事業を推進されております。本当にそういう意味では、先ほど指摘しました。こういう行政のあり方として、県の姿勢、本当に県民だよりにこういう形で文言を込めて、同意しない市や町については支援しません、振興策しません、こういうおどしの文句をつくるような、そんな県政であっていいのだろうかとは私は思います。

そういう意味では、本当にこの新幹線、国として、3年目のことし、10億円の事業費としてつけられました。私はもうそんな費用は削除するべきだということを申し述べておきたいと思いますし、再考してほしいということを指摘しておきたいと思います。

次に、暮らしやすい武雄市を目指して水道料金の引き下げを求めて、質問をいたします。

今、先ほど今議会でもこの水道事業について、新武雄市として水道事業の認可申請に向けて作業を行っているかと答弁されております。この間、もう一度、この認可事業申請に向けて取り組んでおられる中身について、前の質問者もおられましたので、答弁が重なるかと思いますが、改めてこの認可申請に向けての準備状況を、御答弁を求めておきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

伊藤水道部長

○伊藤水道部長〔登壇〕

今現在の認可申請の作業状況でございますけれども、人口推計につきましては5万2,900人、水需要の計画としましては1日最大給水量2万3,480トンということをもとに、厚生労働省と鋭意協議中であります。

厚生労働省の方に申し入れをしているのは、今のところ10月の認可をいただきたいということで、私どもの作業としましては、遅くとも9月議会でこの給水人口並びに1日最大給水量の条例改正を取り組みたいということで考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

現在の給水人口5万2,900人、それと計画水量2万3,480トン、これを市民1人あたりにしますと、1日使う水のリットルは幾らでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

伊藤水道部長

○伊藤水道部長〔登壇〕

先ほどの人口と1日最大給水量で割り合わせますと、440リットル程度になると思います。

○議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

全体のトン数等ではちょっとわかりませんので、1人あたりに直しますと、この水道の計画、あるいは事業の中身がよくわかりますので、ちょっと資料要求していませんでしたけど、お願いしました。

440リットル、ドラム缶1個200リットル、ドラム缶2個で400リットルですよね。1日に2個以上使うと。旧山内町――旧といいますか、山内町で水道事業の計画が2次拡張で打ち出していたのが497リットルでした。でも、使うのが今は250リットルです。ですから、今、部長答弁、440リットル、多いなと思いますが、これまで武雄の給水リットル、北方の1人当たりの給水リットルがどのくらいか、もし参考にわかれば、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

伊藤水道部長

○伊藤水道部長〔登壇〕

ちょっと今、資料を持ち合わせしておりませんので、後もって提出するということをお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

急なことですのですけど、旧山内町の例を申し上げました。1人当たり497リットルでした。これを今現在、250リットル使っているわけですけど、当時、いろいろ執行側とも議論しましたけど、本当に過大見積もりではないかと。ですから、新市の水道事業の認可のための1人当たり使うリットルも440リットル。これが妥当かどうかは、これまでの経緯を考えますと、どうかなと認識をします。

そこで、この間、市長も水道料金値下げのため頑張るという形で進めてこられていると思いますが、それに関しての水道部としての取り組み状況を御報告いただければ、お願いします。

○議長（杉原豊喜君）

伊藤水道部長

○伊藤水道部長〔登壇〕

具約にもありますとおり、まずもって佐賀県一の水道料金にならないというのがありますから、まずもって私どもとしては、今度の統一料金について、佐賀県一にならない料金の設定をしようと思っています。

この段階におきましてですけれども、今、1年かけまして、すべての維持管理費の見直し等々についてずっと進めてまいりました。また、この間、幸いにも西部広域水道企業団の受水費についても4円程度下がったということが最終決定をしたわけですので、そういうのを原資として、佐賀県一にならない水道料金になるということで現在議論を進めているところでございます。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

引き下げのための合併、あわせて西部広域水道の年間約55,000千円近くのいわゆるむだな水に対して、使わない水にお金を払っていると、こういうの見直そうという動きがあるということと言われました。と同時に、西部広域水道の1リットル（230ページで訂正）88円の単価が84円になったんでしょう。いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

伊藤水道部長

○伊藤水道部長〔登壇〕

今おっしゃるとおりで、平成19年度から84円に受水費が決定をしたところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

市長にお尋ねしますが、市長の演告で、そういう水道事業の見通しが出てきたから審議会を立ち上げるんですか。そのことについて、御答弁求めたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

先ほど水道部長から答弁があったように、具体化が見えてきた段階で専門審議会を立ち上げ、そこで協議をするというステップについては、演告のとおりであります。

○議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

なかなか市長が言う専門の審議会の中身がよくわかりませんが、次の質問にしております固定資産税もあわせてですけれども、この固定資産税について、さきの質問者に対して、税務課でなくて企画部の方で答弁されましたけど、市長の具約に掲げている水道料金、固定資産税、介護保険料の審議会の問題、市長が考えていることを御答弁いただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

具約の作成当時は別々なものの専門審議会にしようかなというふうに思っておりました。ただ、武雄の場合は人口が5万3,000人という小規模だということと、あと職員の数が400人から500人、病院を入れるか入れないかはありますけれども、それぐらいの規模であつたら一つにまとめて集約をして、水道料金、固定資産税等の議論をその中でしてもらおうと。すな

わち一つの審議会、今のところ仮称ですけれども、これは答弁いたしました、行政改革委員会を立ち上げ、その中で、必要な財源をどうするかとか、減らすということになると、どれくらい減らせば財源をどういうふうに持ってくるか等々の議論をその中でしてもらおうというふうに思っております。もとより、具約を私が書いたときの気持ちとは変わっておりませんけれども、方法論については、事務方の意見を聞いて、少々修正をしたところであります。

○議長（杉原豊喜君）

前田企画部長

○前田企画部長〔登壇〕

先ほどの専門審議会の件でございますが、一応企画部の方で今調整をやっておりまして、まだ最終決定はしておりませんが、まず、名称につきましては、仮称でございますが、武雄市行政問題専門審議会ということでやっていきたいと。

それから、委員の構成につきましては20人以内を考えておりまして、その構成については、経営についての見識を有する方ということで、会計士、税理士、銀行関係の方、それに各種団体が推薦する者ということで、これについては行革の市民会議がことしありましたので、その中から。それから、1市2町の中で今、地域審議会がございます。その地域審議会から推薦をしてもらうということで、そのほか市長が適当と認めるということで、そういう中から構成をしたいということで、設置については、4月以降というふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

先ほどの質問者と答弁者の単位が間違っておりますので、修正をさせます。伊藤水道部長

○伊藤水道部長〔登壇〕

先ほど受水費のところ、リットルでの発言をしましたので、ここでおわびして訂正をさせていただきます。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

1リットルて言うたかね。1リットルですね。1リットルば……

○伊藤水道部長（続）

1立米当たりということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

先ほどの質問が1リットル88円だったのは1立米ですので、質問者と答弁者が間違っております。

23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

この水道料金の問題について、この市長の演告を見ますと、水道料金に関して専門の審議会の議論に付すというふうに読めるんですが、お聞きしていると、どうも何か違うようで、

今、御答弁のとおりであります。一緒くたにしてといいますか.....

〔市長「一緒くたではなく、順番です」〕

じゃ、市長、もう一回答弁してください。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

一緒くたではなくて、別々に設けようと思ったところ、それは行政効率が悪いという判断から一つのものにして、まず、水道料金をそこで論議をしてもらおうと。煮詰まった段階で、次、固定資産税を論議してもらおうということでありますので、ごった煮じゃなくて、ところてんだというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

これは市長の公約の最大の公約ですから。先ほど新幹線言いました。市長の選挙公報、何回も出しますけど.....（発言する者あり）毎日持っています。「樋渡啓祐の政策提言」でございます。でかでかと載っていますから。「水道料金、固定資産税の引き下げを具体的に検討開始します」と。私は4月16日当選されてから、あしたでも始まるかと思っていましたけどーこれは冗談です。

ですから、市長もこういう公約を掲げて、私も簡単明瞭に書いていました。これは審議会に諮って議論すると言われますが、住んでいる住民、市民は、この選挙で政治決着をしたんですよ。それは政治家としてわかってください。やはりいろんな要望が起こりますよ。でも、選挙というのは、やっぱり実現してほしいから押し出すんですよ。私はこれを本当選挙戦に感じましたから、市長もそれを感じられたと思いますよ。だから、市長も当選されたんではないかと思います。一緒だと思いますよ。

ですから、佐賀県一にならないと部長は言いましたが、ちょこっと下げただけで、佐賀県2番じゃどがんしゅうもないんですよ。私も興奮すると田舎弁が出てきましたけど。いいでしょう。市長、本当にそういう意味では、やはりこの水道料金、以前も言いました。9月議会でも言いました。やはり10トン、20トン単位で、全国レベルにならない、本当に県下一だけじゃなくて、みんなが納得できる山内町並みの水道料金に下げたいと思います。

もちろんそれは、いろいろ意見出ましたけど、山内町民は、今の山内町の水道料金だけじゃなくて、本当に下げてほしいですよ。でも、経営もありますと言われます。でも、武雄と北方、やっぱりレベルがいろいろあります。そういう意味では、一つの目安、いろんな目安が言われましたので、私はそういう意見を前回も言いましたので、改めてまた指摘しておきた

いと思います。

時間がないので、最後に、本当に暮らしを守る暮らしやすい武雄市をつくるために、固定資産税の引き下げについて質問します。

これは6月議会でも同じボードを持ってきましたけれども、改めて、固定資産税も佐賀県下で一番高い武雄市の100分の1.55ですね。皆さん御承知のとおりです。この点について、先ほど言いました。昨年議会の中で、財源の問題にわたっているいろいろな言われました。でも、この固定資産税というのは、市長が言うように、武雄に生まれてよかった、育ってよかった、帰ってきてよかった、温もりのある元気な新武雄市を市民と一緒につくりますという思いならば、これは紛れもなく1.4が正解ではないでしょうか。

このことを指摘して、そのための施策を努力されることを申し述べて、質問を終わります。ありがとうございました。